

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 9 月 13 日現在

機関番号：82674

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K18469

研究課題名（和文）権利ベースのアプローチを適用した「認知症とともに暮らせる地域社会」のモデル開発

研究課題名（英文）Development of a model to actualize dementia friendly communities from the perspective of rights-based approach

研究代表者

栗田 圭一（Awata, Shuichi）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究部長

研究者番号：90232082

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：権利ベースのアプローチを適用した「認知症とともに暮らせる地域社会」のモデルを開発するために、大規模住宅地に6つの機能を地域拠点を開設し、そのストラクチャとプロセスを記述するとともに、地域支援で実施されている相談事業と本人ミーティングの意義を質的分析によって明らかにした。また、地域拠点が所在する地区住民の社会関係資本の変化を分析するとともに、地区に暮らす認知機能低下高齢者の5年後の転帰と関連要因を明らかにした。以上から、地域住民の社会関係資本、認知機能低下高齢者のアンメットニーズ、認知機能低下高齢者の地域生活の継続が、「認知症とともに暮らせる地域社会」のアウトカム指標になることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

認知症フレンドリー社会への動きは、権利ベースのアプローチを認知症施策に適用するという文脈と連動しながら、世界的な潮流を創り出している。しかし、権利ベースのアプローチを適用して、認知症フレンドリーな地域共生社会をリアルワールドに創り出していくための道筋は明らかではない。本研究では、大都市の大規模住宅地において開発された、RBAを適用した「認知症とともに暮らせる地域社会」を創出するためのモデルを可視化させるとともに、そのアウトカムを評価するための方法を示した。本研究の成果は、わが国のみならず、今後の世界の認知症施策の進展に大きく寄与するものとなるであろう。

研究成果の概要（英文）：To develop the model for creating the communities where people can live well with dementia, we established a community-based center with 6 functions in the context of rights-based approach and described the structure and process of that program. Then we qualitatively analyzed the contribution of the consultation program and dementia meeting held at this site, and quantitatively analyzed the social capital of residents in that area where the center located. Finally, we examined the outcome of living status in older people with cognitive decline living in that area through a 5-year follow-up study. We concluded that followings could be indices of outcomes for creating the communities where people can live well with dementia: 1) social capital of people living within a catchment area, 2) degree of unmet needs in people with cognitive decline, and 3) continuity of community living in people with cognitive decline.

研究分野：老年精神医学

キーワード：認知症 権利ベースのアプローチ 地域共生社会 社会的支援 社会的ネットワーク 社会関係資本 社会的孤立 認知症フレンドリー社会

1. 研究開始当初の背景

2015年に国際認知症同盟(Dementia Alliance International, DAI)は、認知症施策に「認知症とともに生きる人々の人権の確保」を盛り込むことを要請し、「認知症に対する世界行動のための第1回閣僚会議」において、認知症政策に「権利ベースのアプローチ」(Rights-based Approach, RBA)を採用することを求めた。RBAとは、1990年代後半より国際的な開発援助の領域で用いられてきた用語であり、国際的な人権に関する法体系の「基準」と「原則」を、開発援助の「計画」や「過程」に取り入れようとする考え方である。その特徴は、ニーズが充足されていないことに注目するばかりではなく、ニーズが充足されていないことを権利が実現されない状況と捉え、その構造を徹底的に分析し、権利保有者と責務履行者の関係にフォーカスをあて、権利保有者が権利を行使できるように、責務履行者が責務を履行する能力を発揮できるように、包括的戦略を練り、開発援助の計画を進めようとする点にある。今日の認知症フレンドリー社会(Dementia Friendly Communities, DFC)へ向かう動きは、RBAを認知症施策に適用するという文脈と連動しながら、世界的な潮流を創り出している。しかし、RBAを適用してDFCを創り出していくための道筋は明らかにされていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、RBAを適用した「認知症とともに暮らせる地域社会」を創出するためのモデルを開発し、そのアウトカムを評価する方法を示すことにある。

3. 研究の方法

研究代表者らは、2016年より、東京都板橋区高島平地区に在住する70歳以上の全高齢者(7,614名)を対象とする生活実態調査を実施し、認知機能低下は、IADL低下とともに、身体的・精神的健康状態の悪化、経済的困窮、社会的孤立と密接に関連すること、そのような身体的・精神的・社会的リスクの複合化が軽度認知障害(MCI)や軽度認知症の段階で認められること、複合的な社会的支援ニーズが存在するにも関わらず、必要な情報やサービスにアクセスできない認知症高齢者が数多く存在すること、unmet needsが地域生活の継続を阻む重要な要因になっていることを明らかにした。この状況を変化させるためには、コーディネーション(本人の視点に立って必要な社会的支援を統合的に調整すること)とネットワーキング(必要な社会的支援の利用・提供を可能とする構造をつくること)を推進する地域の拠点を設置することが有用であるという仮説をたて、当該地区に表1に示す6つの機能をもつ地域拠点を設置し、その効果を多角的に分析することにした。

表 1. 地域拠点の 6 つの機能

機能	説明
居場所としての機能	認知症の有無に関わらず，障害の有無に関わらず，誰もが居心地よく，自由に過ごすことができる．
相談に応需できる機能	多様な生活課題をもって暮らす人々が，気兼ねなく相談にいくことができる．必要に応じて，適切な社会資源につなぐことができる．
差別・偏見を解消し，社会参加を促進する機能	多様な活動を通して，共に学び，共に活動し，共に楽しむ機会を創り出し，それによって差別や偏見を解消し，社会参加を促進することができる．
連携を推進する機能	社会的支援を提供する多様なステークホルダー（組織・団体）が情報を共有し，「顔の見える」連携・協働を推進することができる．
支援の担い手を育成する機能	「認知症」と「人権」にフォーカスをあてた研修会などを通して，認知症についての理解を深め，人権についての意識を高め，「合理的配慮」のある地域環境を育むことができる．
認知症である当事者の参画を促進する機能	本人ミーティング（認知症の本人が集い，本人同士が主になって，自らの体験や希望，必要としていることを語り合い，自分たちのこれからのよりよい暮らし，暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場）を定例的に開催している．

4. 研究成果

4.1. 地域拠点のストラクチュアとプロセス

大都市の大規模集合住宅地に，表 1 に示す機能（2017 年～2018 年は ～ ，2018 年以降は ～ ）を有する地域拠点「高島平ココからステーション」を開設し，そのストラクチュアとプロセスを記述した．その結果，地域拠点は，表 1 の機能を継続的に発揮し，認知症高齢者を含む多様な人々に利用されていることが確認された．また，医療を拒否する身寄りのない末期がんの男性高齢者の意思決定支援とエンドオブライフケア，認知症とともに生きる不安の強い独居女性の心理的なサポートを含む生活支援，新型コロナウイルス感染症流行下での情報提供や不安解消を目的とする電話相談や訪問支援，社会的孤立状況にある高齢者の口腔保健に関するアプローなどが実践できることが示された．

4.2. 相談事業利用者の相談内容から見た地域拠点の意義

2017 年 4 月～2018 年 5 月まで（開設直後から 14 ヶ月）に，高島平ココからステーション医師による相談事業において 133 件の相談を受けた．相談者は，50 歳～90 歳代にわたり，

相談内容は身体医療相談のみのケースは 47 件 (35%)、認知症のみのケースは 8 件 (6%) であり、残りの 78 件 (59%) については 8 つの主題 (頻度の高い順に: 医療不信猜疑心 (29%)、精神疾患 (16%)、保健医療提供体制の理解 (15%)、家族関係 (10%)、老いの受容 (9%)、地域の支援者の苦悩 (9%)、介護者支援 (7%)、困難事例 (5%)) が見出された。本研究の結果、地域には、医療などのフォーマルなサービスを受ける前の手前で相談したいというニーズがあるにも関わらず、そのようなニーズが充足されていない人々が数多く暮らしている現状が明らかにされた。このような支援は、受療等のフォーマルなサービスの利用に関わる情緒的・情動的・手段的な生活支援と呼び得るものかもしれない。地域拠点は、このような生活支援ニーズの充足に寄与していることが明らかにされた。

4.3. 地域拠点で実践される本人ミーティングの意義

2018 年より、認知症と診断された人やもの忘れが心配ない人などによる本人ミーティング「ここから話そう会」を開始した。開催頻度は月 1 回。周知方法は開催を知らせるチラシの配布と団地内口ビーへの掲示である。チラシは地域拠点で配布するだけでなく、近隣の医療・介護施設や区内の地域包括支援センターにも配布した。会は本人会と家族会に分かれて開催した。話そう会を 11 回開催したところ、本人会・家族会を含め、延べ 109 人が参加した。会には、認知症と診断された人、認知症・もの忘れが心配ない人、認知症の勉強のために参加した人、家族介護者として相談したい人が参加した。本人会に参加するのは ~ の人で、11 回の延べ参加人数は 83 人 (女性 57 人)、1 回の平均参加者は 7.4 人であった。参加者アンケートからは、本人会の参加者は 80 代が最も多く (45.6%)、次いで 70 代 (32.4%) であった。本人会・家族会で語った参加動機をコード化して分析すると、頻度の高い順に、「自分の認知症が心配なので」(24.8%)、「認知症の勉強のため」(23.9%)、「家族の相談がしたくて(家族会参加者)」(22.9%)、「認知症と診断されたので」(11.9%)、「(認知症以外の)別の困りごとがあるので」(8.3%)、「不明(明確な理由を言及せず)」(8.3%) であった。本人ミーティングの意義は、「認知症と診断された人」「認知症・もの忘れが心配な人」が、仲間同士の出会いを通して、「自分の認知症に対する心配」を解消し、希望をもって前向きに生きることを可能にさせること、認知症ではない地域拠点の利用者が、認知症である利用者との交流を通して、自分自身の認知症観を見直す機会が得られること、当事者のニーズにあった社会的支援のあり方が見直されてゆくことにある。

4.4. 地域拠点が地域在住高齢者の社会関係資本に及ぼす影響

地域拠点が所在する高島平 2 丁目に在住する 70 歳以上高齢者 (悉皆) を対象に、2016 年と 2019 年に郵送法による自記式質問紙調査を実施し、社会関係資本に関連する 3 つのアウトカム指標 (社会的交流、認知症とともに地域で暮らすことへの信頼、認知症についての意識) を評価した。2016 年調査と 2019 年調査の回答者全体を比較すると、男性では、「月 1 回以上友人と直接的な交流をする人」の割合が有意に増加し (38.8% vs. 44.5%; $P < 0.01$)、

「認知症になってからも地域で暮らせると感じている人」の割合が有意に増加した（34.1% vs. 38.3%; $P < 0.05$ ）。2016年調査と2019年調査の回答者のうち、認知機能低下を認める高齢者を比較すると、男性では、「月1回以上友人と直接的な交流をする人」の割合が有意に増加し（9.8% vs. 21.6%; $P < 0.01$ ）、「認知症になってからも地域で暮らせると感じている人」の割合が有意に増加した（23.5% vs. 39.1%; $P < 0.05$ ）。6つの機能をもつ地域拠点を設置することによって、同地域に暮らす男性高齢者の「社会的交流」と「認知症とともに地域で暮らすことへの信頼」が有意に高まることが示された。

4.5. 認知機能低下を認める高齢者の死亡と施設入所に及ぼす要因：5年間の縦断研究

2016年調査において認知機能低下（MMSE23点以下）を認めた70歳以上高齢者198人の5年後（2021年）の転帰を調査し、関連要因を分析した。198人のうち155人が追跡され、このうち67%が地域生活継続、16%が死亡、15%が施設入所、2%が入院となった。追跡可能群と追跡脱落群を比較したところ、単身世帯であることのみが脱落と有意に関連した（ $P = 0.002$ ）。地域生活継続をリファレンスとしたステップワイズ二項ロジスティック回帰分析では、高齢であることや要介護認定を受けていること以外に、フレイルであること（ $P < 0.05$ ）、生活支援（ $P < 0.05$ ）や権利擁護支援（ $P < 0.05$ ）のニーズが不充足であることが死亡と有意に関連し、認知症であることや要介護認定を受けていること以外に、医療機関にかかっていないこと（ $P < 0.05$ ）や、認知症の診断がなされていないこと（ $P < 0.05$ ）が、施設入所に有意に関連した。

本研究によって、独居の認知機能低下高齢者は追跡そのものから脱落しやすいこと、フレイルがあり、生活支援や権利擁護支援のニーズが充足されていない認知機能低下高齢者では死亡リスクが高まること、医療機関への受診や認知症の診断ニーズが充足されていない高齢者は施設に移行する可能性が高まることが明らかになった。

4.6. 「認知症とともに暮らせる地域社会」のアウトカム評価について

社会的支援の利用・提供を可能とするネットワークづくり（ネットワーキング）を進める地域拠点の活動は、社会的孤立とアンメットニーズを解消することにフォーカスが当てられている。この活動のアウトカムを評価するためには、地域に暮らす人々の社会的ネットワーク・社会関係資本の変化、認知機能低下高齢者の社会的支援のアンメットニーズの変化（＝認知症機能低下高齢者の社会的孤立の変化）、認知機能低下高齢者の地域生活継続の変化を測定することが肝要である。これら3つが「認知症とともに暮らせる地域社会」のアウトカム指標になるものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 28件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Ura C, Okamura T, Sugiyama M, Kugimiya Y, Okamura M, Ogawa M, Miyamae F, Edahiro A, Awata S	4. 巻 20
2. 論文標題 Call for telephone outreach to older people with cognitive impairment during the COVID-19 pandemic.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int.	6. 最初と最後の頁 1245-1248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14071.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Edahiro A, Okamura T, Motohashi Y, Takahashi C, Sugiyama M, Miyamae F, Taga T, Ura C, Nakayama R, Yamashita M, Awata S.	4. 巻 20
2. 論文標題 Oral health as an opportunity to support isolated people with dementia: useful information during coronavirus disease 2019 pandemic.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 140-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12621.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Kugimiya Y, Okamura M, Ogawa M, Miyamae F, Edahiro A, Awata S.	4. 巻 20
2. 論文標題 Defending community living for frail older people during the COVID-19 pandemic.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 944-945
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12598.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ura C, Okamura T, Inagaki H, Ogawa M, Niikawa H, Edahiro A, Sugiyama M, Miyamae F, Sakuma N, Furuta K, Hatakeyama A, Ogisawa F, Konno M, Suzuki T, Awata S.	4. 巻 20
2. 論文標題 Characteristics of detected and undetected dementia among community-dwelling older people in Metropolitan Tokyo.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int.	6. 最初と最後の頁 564-570
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13924.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山美香, 岡村毅, 小川まどか, 宮前史子, 枝広あや子, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 釘宮由紀子, 岡村睦子, 森倉三男, 見城澄子, 佐久間尚子, 粟田主一	4. 巻 18
2. 論文標題 大都市の大規模集合住宅地に認知症支援のための地域拠点をづくり: Dementia Friendly Communities創出に向けての高島平ココからステーションの取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 847-853
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡村毅, 杉山美香, 枝広あや子, 宮前史子, 釘宮由紀子, 岡村睦子, 粟田主一	4. 巻 57
2. 論文標題 尊厳を守るには: 大規模団地で孤立する高齢者の意思決定支援を振り返る.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本老年医学雑誌	6. 最初と最後の頁 467-474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ura C, Okamura T, Sugiyama M, Miyamae F, Yamashita M, Nakayama R, Eda Hiro A, Taga T, Inagaki H, Ogawa M, Awata S	4. 巻 19
2. 論文標題 Living on the edge of the community: factors associated with discontinuation of community living among people with cognitive impairment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Geriatr	6. 最初と最後の頁 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-021-02084-2.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murayama H, Miyamae F, Ura C, Sakuma N, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Awata S.	4. 巻 19
2. 論文標題 Does community social capital buffer the relationship between educational disadvantage and cognitive impairment? A multilevel analysis in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 1442
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-019-7803-0.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murayama H, Ura C, Miyamae F, Sakuma N, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Awata S.	4. 巻 19
2. 論文標題 Ecological relationship between social capital and cognitive decline in Japan: A preliminary study for dementia-friendly communities.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int.	6. 最初と最後の頁 950-955
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13736. Epub 2019 Jul 24.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Niikawa H, Kawano Y, Yamanaka K, Okamura T, Inagaki H, Ito K, Awata S.	4. 巻 19
2. 論文標題 Reliability and validity of the Japanese version of a self-report (DEMQOL) and carer proxy (DEMQOL-PROXY) measure of health-related quality of life in people with dementia.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int.	6. 最初と最後の頁 487-491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13646. Epub 2019 Apr 14.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamura T, Sugiyama M, Inagaki H, Murayama H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Motokawa K, Awata S.	4. 巻 19
2. 論文標題 Anticipatory anxiety about future dementia-related care needs: towards a dementia-friendly community.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics.	6. 最初と最後の頁 539-546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12433. Epub 2019 Mar 18.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Ogawa M, Inagaki H, Miyamae F, Edahiro A, Kugimiya Y, Okamura M, Yamashita M, Awata S.	4. 巻 20
2. 論文標題 Everyday challenges facing high-risk older people living in the community: a community-based participatory study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Geriatr.	6. 最初と最後の頁 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-020-1470-y.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山美香, 岡村毅, 小川まどか, 宮前史子, 枝広あや子, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 釘宮由紀子, 岡村睦子, 森倉三男, 見城澄子, 佐久間尚子, 粟田主一	4. 巻 18
2. 論文標題 大都市の大規模集合住宅地に認知症支援のための地域拠点をづくり: Dementia Friendly Communities創出に向けての高島平ココからステーションの取り組み.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 847-853
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 31
2. 論文標題 一人暮らし, 認知症, 社会的孤立	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 451-459
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 58
2. 論文標題 6. 地域ぐるみの取り組み 2)東京都板橋区高島平	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatric Medicine	6. 最初と最後の頁 511-513
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 30増刊号-1
2. 論文標題 認知症施策への今後の提言 -Dementia Friendly CommunitiesとRights-Based Approach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 30
2. 論文標題 超高齢期の認知症の疫学と社会状況	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 238-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 35
2. 論文標題 これからの認知症施策が向かうべき方向性について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知症の最新医療	6. 最初と最後の頁 186-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 64
2. 論文標題 認知症とともに暮らせる社会をめざして、大都市の認知症高齢者生活実態調査を通して、	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マンション学	6. 最初と最後の頁 89-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 30
2. 論文標題 今日の認知症施策に関するいくつかの課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 1379-1384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 30増刊号
2. 論文標題 認知症施策の今後への提言 Dementia Friendly CommunitiesとRights-Based Approach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 32
2. 論文標題 権利ベースのアプローチ, 地域をつくる取組み.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 165-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 63
2. 論文標題 認知症フレンドリー社会の創出をめざした地域疫学研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 505-514
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 4
2. 論文標題 高島平スタディ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年内科	6. 最初と最後の頁 369-376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 279
2. 論文標題 認知症の権利擁護と地域生活支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 420-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 枝広あや子, 岡村毅, 杉山美香, 小川まどか, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 釘宮由紀子, 森倉三男, 岡村睦子, 中山莉子, 多賀努, 山下真里, 津田修治, 井藤佳恵, 粟田主一	4. 巻 20
2. 論文標題 認知症などの困難を抱えた高齢者に対する地域における歯科口腔保健相談の意義と方法論 権利ベースの アプローチという観点から.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌, 20(3): 435-445, 2021	6. 最初と最後の頁 435-445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ura C, Okamura T, Sugiyama M, Miyamae F, Yamashita M, Nakayama R, Eda Hiro A, Taga T, Inagaki H, Ogawa M, Awata S.	4. 巻 21
2. 論文標題 Living on the edge of the community: factors associated with discontinuation of community living among people with cognitive impairment.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Geriatr	6. 最初と最後の頁 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-021-02084-2.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakurai R, Inagaki H, Tokumaru AM, Sakurai K, Shimoji K, Kobayashi-Cuya KE, Kitamura A, Watanabe Y, Shinkai S, Awata S;	4. 巻 21
2. 論文標題 Takashimadaira Study Group. Differences in the association between white matter hyperintensities and gait performance among older adults with and without cognitive impairment.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int.	6. 最初と最後の頁 313-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14132.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto K, Motokawa K, Yoshizaki T, Yano T, Hirano H, Ohara Y, Shirobe M, Hayakawa M, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Watanabe Y.	4. 巻 41
2. 論文標題 Dietary variety is associated with sleep efficiency in urban-dwelling older adults: A longitudinal study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clin Nutr ESPEN	6. 最初と最後の頁 391-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clnesp.2020.10.013.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakurai R, Kim Y, Inagaki H, Tokumaru AM, Sakurai K, Shimoji K, Kitamura A, Watanabe Y, Shinkai S, Awata S.	4. 巻 69
2. 論文標題 MMSE Cutoff Discriminates Hippocampal Atrophy: Neural Evidence for the Cutoff of 24 Points.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Am Geriatr Soc. 2021 Mar;69(3):839-841.	6. 最初と最後の頁 839-841
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgs.17010.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Edahiro A, Okamura T, Motohashi Y, Takahashi C, Meguro A, Sugiyama M, Miyamae F, Taga T, Ura C, Nakayama R, Yamashita M, Awata S.	4. 巻 18
2. 論文標題 Severity of Dementia Is Associated with Increased Periodontal Inflamed Surface Area: Home Visit Survey of People with Cognitive Decline Living in the Community.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health.	6. 最初と最後の頁 11961
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0260412.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamura T, Ura C, Kugimiya Y, Okamura M, Yamamura M, Okado H, Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F, Edahiro A, Taga T, Ito K, Awata S.	4. 巻 36
2. 論文標題 After 5 years, half of people with cognitive impairment were no longer living in the community: A community observational survey:	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Geriatr Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1970-1971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.5608.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 91. Nakayama R, Sugiyama M, Ura C, Taga T, Tsuda S, Yamashita M, Miyamae F, Eda Hiro A, Inagaki H, Ogawa M, Okamura T, Awata S.	4. 巻 21
2. 論文標題 The relationship between cognitive decline and well-being: investigation in older community-dwelling people with moderately impaired cognition.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 841-843
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12742.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Kugimiya Y, Okamura M, Awata S	4. 巻 36
2. 論文標題 Everyday lives of community-dwelling older people with dementia during the COVID-19 pandemic in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Geriatr Psychiatry. 2021 Sep; 36(9): 1465-1467.	6. 最初と最後の頁 1465-1467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.5553.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayakawa M, Motokawa K, Mikami Y, Yamamoto K, Shirobe M, Eda Hiro A, Iwasaki M, Ohara Y, Watanabe Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Inagaki H, Shinkai S, Awata S, Araki A, Hirano H.	4. 巻 13
2. 論文標題 Low Dietary Variety and Diabetes Mellitus Are Associated with Frailty among Community-Dwelling Older Japanese Adults: A Cross-Sectional Study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 641
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu13020641.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwasaki M, Watanabe Y, Motokawa K, Shirobe M, Inagaki H, Motohashi Y, Mikami Y, Taniguchi Y, Osuka Y, Seino S, Kim H, Kawai H, Sakurai R, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S.	4. 巻 65
2. 論文標題 Oral frailty and gait performance in community-dwelling older adults: findings from the Takashimadaira study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Prosthodont Res	6. 最初と最後の頁 467-473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2186/jpr.JPR_D_20_00129.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 24
2. 論文標題 認知症とともに生きる人の社会参加を促進するために.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング, 24(5): 6-11, 2022.	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 粟田主一	4. 巻 31
2. 論文標題 独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしをくれる社会環境の創出に向けて.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 211-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下真里, 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 多賀努, 津田修治, 井藤佳恵, 粟田主一	4. 巻 20
2. 論文標題 認知機能低下を抱えた地域在住高齢者のインフォーマル・サポートと精神的健康に関する質的研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 560-571
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuda S, Inagaki H, Okamura T, Sugiyama M, Ogawa M, Miyamae F, Edahiro A, Ura C, Sakuma N, Awata S.	4. 巻 22
2. 論文標題 Promoting cultural change towards dementia friendly communities: a multi-level intervention in Japan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Geriatr. 2022 Apr 23;22(1):360	6. 最初と最後の頁 360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-022-03030-6.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyamae F, Taga T, Okamura T, Awata S.	4. 巻 22
2. 論文標題 Toward a society where people with dementia 'living alone' or 'being a minority group' can live well.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12836.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F, Eda Hiro A, Taga T, Tsuda S, Nakayama R, Ito K, Awata S.	4. 巻 22
2. 論文標題 Factors associated with inability to attend a follow-up assessment, mortality, and institutionalization among community-dwelling older people with cognitive impairment during a 5-year period: evidence from community-based participatory research.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics. 2022 May;22(3):332-342.	6. 最初と最後の頁 332-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12816.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakuma N, Inagaki H, Ogawa M, Eda Hiro A, Ura C, Sugiyama M, Miyamae F, Suzuki H, Watanabe Y, Shinkai S, Okamura T, Awata S.	4. 巻 100
2. 論文標題 Cognitive function, daily function and physical and mental health in older adults: A comparison of venue and home-visit community surveys in Metropolitan Tokyo.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Arch Gerontol Geriatr.	6. 最初と最後の頁 104617
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2021.104617	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 栗田主一
2. 発表標題 認知症の共生と予防を考える
3. 学会等名 第35回日本老年精神医学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 都市に暮らす認知機能低下高齢者の生活実態と社会的孤立の解消に向けた地域づくり
3. 学会等名 第39回日本認知症学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 わが国の認知症施策の現状と課題
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇良千秋，岡村毅，杉山美香，中山莉子，山下真里，宮前史子，小川まどか，稲垣宏樹，枝広あや子，粟田主一
2. 発表標題 大都市団地で認知機能低下と共に暮らす高齢者の体験世界を知る（1）生活拠点の変化と属性の違いについて
3. 学会等名 第21回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下真里，岡村毅，宇良千秋，杉山美香，中山莉子，宮前史子，小川まどか，稲垣宏樹，枝広あや子，粟田主一
2. 発表標題 大都市団地で認知機能低下と共に暮らす高齢者の体験世界を知る（2）地域生活の体験と主観的QOLの関連
3. 学会等名 第21回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 山下真里, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 栗田主一
2. 発表標題 大都市団地で認知機能低下と共に暮らす高齢者の体験世界を知る(3) 本人の語りに基づいた, 本人の生活世界の探求
3. 学会等名 第21回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗田主一
2. 発表標題 希望と尊厳をもって暮らせる社会をめざして
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗田主一
2. 発表標題 認知症ケアを受ける人の権利について考えたことはありますか
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉山美香, 岡村毅, 枝広あや子, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 釘宮由紀子, 森倉三男, 岡村睦子, 栗田主一
2. 発表標題 高島平スタディ1. 認知症支援のための地域拠点における医療・保健・心理相談. 高島平ココからステーションの実践.
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡村毅, 杉山美香, 小川まどか, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 釘宮由紀子, 岡村睦子, 森倉三男, 栗田主一
2. 発表標題 高島平スタディ 2. 医療を受けるための支援. 医師が地域相談をしてわかったこと.
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 枝広あや子, 釘宮由紀子, 森倉三男, 岡村睦子, 杉山美香, 岡村毅, 小川まどか, 宮前史子, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 栗田主一
2. 発表標題 高島平スタディ 3. 地域拠点における歯科相談. 歯の相談から生まれる生活の希望.
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 本川佳子, 渡邊裕, 枝広あや子, 宇良千秋, 小川まどか, 杉山美香, 宮前史子, 岡村毅, 新開省二, 栗田主一
2. 発表標題 高島平Studyにおける会場健診参加者の2年後の追跡(1); MMSE-J得点の変化.
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲垣宏樹, 佐久間尚子, 本川佳子, 渡邊裕, 枝広あや子, 宇良千秋, 小川まどか, 杉山美香, 宮前史子, 岡村毅, 新開省二, 栗田主一
2. 発表標題 高島平Studyにおける会場健診参加者の2年後の追跡(2); 認知機能低下と社会的孤立との関連.
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会,
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉山美香, 宮前史子, 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 小川まどか, 枝広あや子, 岡村毅, 栗田主一
2. 発表標題 地域在住高齢者の認知機能低下と日常生活支援ニーズ
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川まどか, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 杉山美香, 宮前史子, 岡村毅, 枝広あや子, 釘宮由紀子, 森倉三男, 岡村睦子, 栗田主一
2. 発表標題 権利ベースのアプローチによる認知症支援の担い手育成の効果の検証
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 松原ちあき, 釘宮嘉浩, 五十嵐憲太郎, 本橋佳子, 小原由紀, 平野浩彦, 渡邊裕, 栗田主一
2. 発表標題 都市高齢者の認知機能低下と身体・口腔機能低下との関連
3. 学会等名 第30回日本老年歯科医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗田主一
2. 発表標題 認知症医療における患者中心の医療とは. 第30回日本老年医学会東海地方会
3. 学会等名 第30回日本老年医学会東海地方会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sugiyama M, Inagaki H, Awata S
2. 発表標題 Construction of an early support system for persons living with dementia starting with evaluation of life function of elderly people through investigation by mail. A community-based survey in Japan.
3. 学会等名 The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miyamae F, Sugiyama M, Awata S
2. 発表標題 What are the supports for independent living of older people with dementia?
3. 学会等名 The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichi Awata
2. 発表標題 Recent Trends in Japanese Dementia Friendly Communities: To Create Dementia Friendly Communities
3. 学会等名 The Korean Association for Geriatric Psychiatry 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗田主一
2. 発表標題 認知症とともに暮らせる社会をめざして
3. 学会等名 第61回日本脳循環代謝学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 パーソンセンタードケアと問題解決療法を理論的枠組とする多職種協働による支援モデル
3. 学会等名 第37回日本認知症学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 地域包括ケアシステムと認知症予防
3. 学会等名 第8回認知症予防学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 認知症とともに生きる本人・家族へのチームアプローチ
3. 学会等名 第40回日本看護学会－精神看護－学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川まどか，稲垣宏樹，宇良千秋，杉山美香，宮前史子，釘宮由紀子，枝広あや子，岡村毅，佐久間尚子，新川祐利，粟田主一
2. 発表標題 大都市における認知症支援のための地域づくり（その1）：権利ベースのアプローチによる支援の担い手育成方法論の探索．
3. 学会等名 第33回日本老年精神医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 認知症とともに暮らせる長寿社会をめざして
3. 学会等名 第38回日本社会精神医学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsuyoshi Okamura, Chiaki Ura, Yukiko Kugimiya, Mutsuko Okamura, Masako Yamamura, Hidemi Okado, Mika Sugiyama, Tsutomu Taga, Ayako Edahiro, Shuichi Awata
2. 発表標題 What happens to people living in the Tokyo metropolitan area with cognitive impairment in 5 years?
3. 学会等名 Regional IPA/JPS Meeting（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Hirohiko Hirano, Masanori Iwasaki, Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Yoshiko Oohori, Kae Ito, Tsuyoshi Okamura, Shuichi Awata
2. 発表標題 A qualitative analysis of difficulties experienced by people living with dementia and their families while visiting the dentist.
3. 学会等名 Regional IPA/JPS Meeting,（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 枝広あや子, 宮前史子, 多賀努, 杉山美香, 佐久間尚子, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 岡村毅, 粟田主一
2. 発表標題 Dementia Friendly Communitiesに向けた口腔保健の実践～大規模団地の片隅の地域介入から～. 0. 枝広あや子, 宮前史子, 多賀努, 杉山美香, 佐久間尚子, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 岡村毅, 粟田主一: Dementia Friendly Communitiesに向けた口腔保健の実践～大規模団地の片隅の地域介入から～. 合同シンポジウム2: 高齢者/認知症の人に優しいまちづくり. 第32回日本老年学会総会, 2021.6.11-6.13, 名古屋 (Web開催) (シンポジウム).
3. 学会等名 第32回日本老年学会総会 (シンポジウム) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 認知症フレンドリー社会の実現をめざした地域疫学研究
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会（シンポジウム）。（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 多賀努, 井藤佳恵, 宇良千秋, 枝広あや子, 岡村毅, 岡村睦子, 釘宮由紀子, 杉山美香, 津田修治, 中山莉子, 宮前史子, 山下真里, 粟田主一
2. 発表標題 心身の機能の低下した高齢者の「尊厳」観に関する実証的研究：認知機能の低下した高齢者の尊厳観に立った支援の予備的な調査。
3. 学会等名 第36回日本老年精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 稲垣宏樹, 小川将, 枝広あや子, 杉山美香, 宮前史子, 宇良千秋, 岡村毅, 粟田主一
2. 発表標題 大都市に暮らす高齢者のTrail Making Testの成績（その3）. TMT-B完遂者のエラー1回は健常範囲か？
3. 学会等名 第36回日本老年精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森倉三男, 多賀努, 井藤佳恵, 宇良千秋, 岡村毅, 見城澄子, 釘宮由紀子, 杉山美香, 永瀬雅子, 中山莉子, 宮前史子, 粟田主一
2. 発表標題 「地域の居場所」の利用によるフォーマルサービスの利用支援。
3. 学会等名 第36回日本老年精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲垣宏樹, 粟田主一, 宇良千秋, 枝広あや子, 岡村毅, 杉山美香, 宮前史子, 多賀努, 平野浩彦, 本川佳子, 小原由紀, 横山友里, 北村明彦, 新開省二
2. 発表標題 大都市に一人で暮らす認知機能低下高齢者の対人・社会関係に関する報告.
3. 学会等名 第36回日本老年精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症流行の影響: 認知症者の人権を守るという観点から.
3. 学会等名 第64回日本老年医学会(シンポジウム)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 枝広あや子, 稲垣宏樹, 杉山美香, 岡村毅, 宇良千秋, 宮前史子, 津田修治, 井藤佳恵, 粟田主一
2. 発表標題 パンデミックによる行動変化が地域在住高齢者のフレイル発症に及ぼす影響.
3. 学会等名 第64回日本老年医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 粟田主一
2. 発表標題 認知症の発症・進行・複雑化のリスクとプライマリ・ヘルス・ケアに関する課題.
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会(シンポジウム)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中山莉子, 岡村毅, 枝広あや子, 見城澄子, 森倉三男, 岡村睦子, 釘宮由紀子, 永瀬雅子, 宮前史子, 杉山美香, 多賀努, 栗田主一
2. 発表標題 認知症とともに生きる高齢者はどのような買い物にまつわる困難を抱くのか?
3. 学会等名 第23回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮前史子, 釘宮由紀子, 岡村睦子, 森倉三男, 佐藤恵, 田畑文子, 杉山美香, 枝広あや子, 岡村毅, 栗田主一
2. 発表標題 認知症カフェで終末期と死に伴走する 利用者の終末期と死を隠さないことの意味 .
3. 学会等名 第23回日本認知症ケア学会,
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡村 毅 (Okamura Tsuyoshi)		
研究協力者	津田 修治 (Tsuda Shuji)		
研究協力者	杉山 美香 (Sugiyama Mika)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	宮前 史子 (Miyamae Fumiko)		
研究協力者	宇良 千秋 (Ura Chiaki)		
研究協力者	枝広 あや子 (Edahiro Ayako)		
研究協力者	稲垣 宏樹 (Inagaki Hiroki)		
研究協力者	佐久間 尚子 (Sakuma Naoko)		
研究協力者	中山 莉子 (Nakayama Riko)		
研究協力者	多賀 努 (Taga Tsutom)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------